



夏山集中登山

1コース ゆっくりリズム山行 西穂独標

- 日程：8月19日(土)～21日(月)
- 参加者：La 山本(正一) SLa 西口 笹木 西脇 橋本(健) 安田 吉村
Lb 砂川(延) SLb 荘所 兼澤 木畑 砂川(美) 関山 平石 藤田
- 行動記録：
 - (19日) 山電高砂駅7:55発－JR宝殿駅8:25発－JR加古川駅8:50発－旧滝野庁舎下9:40発－中国赤松SA(10:00着)10:15発－名神多賀SA(12:30着・昼食)13:00発－東海北陸ひるがの高原SA(14:30着)14:40発－新穂高温泉駅(16:27着)16:30発－西穂高口駅(17:00着)17:15発～西穂山荘(18:40着)
 - (20日) 西穂山荘4:30発～丸山(4:50着)5:00発～西穂独標(6:00着)6:15発～丸山(7:10着)7:15発～西穂山荘(7:35着)8:10発～上高地分岐8:23～割谷山登山口到着(9:25着)9:32発～槍見台10:00～割谷山(頂上付近通過)11:15～焼岳小屋手前で小休止(11:30着)11:35発～焼岳小屋(12:25着)13:00発～焼岳展望台(13:15着)13:22発～秀綱神社(14:06着)14:13発～焼岳登山口15:55～焼岳中尾温泉登山口(16:35・ストレッチ)16:45発－佳留萱山荘(17:30頃着)
 - (21日) 佳留萱山荘9:00発－高山市内(10:06着)12:15発－中部縦貫道高山IC12:27－養老SA(14:15着)14:30発～西宮名塩SA(16:20着)16:43発－播磨中央公園17:12－JR加古川駅(18:00着)

◆◆やっぱアルプスは最高～！でも、これでゆっくりリズム？ 笹木

今年には是非、夏山山行に参加したいと思っていた。槍ヶ岳に登りたかったが、初めての参加では無謀かと思い、“ゆっくりリズム山行西穂独標”に申し込んだ。独標という場所も私には未知の地である。

大型バスに乗り合わせて向かう道中、何度か渋滞に阻まれ、新穂高ロープウェイ駅に着いたのはなんと最終便発車の3分前、16時27分だった。ドキドキハラハラする中、高御位山遊会の方に迅速に対応していただいて、何とか最終便に乗ることが出来てホッとした。30分で

2000mまで上がると辺りはモヤに包まれ、小雨がぱらつく中、カップを着て西穂山荘をめざす。

1時間半歩いて西穂山荘に到着。荷物を置いたらすぐに夕食。乾杯のビールの1口が美味しかったこと！が、2口で止めておく(本来下戸なのだ)。食事は山小屋とは思えないほど豊かな内容で大満足。就寝部屋は皆そろって布団1枚に1.5人の雑魚寝。寝返りが出来る分まだいいよね。でも21人も居ると常に誰かが起きて動いている。朝方になって30分位は眠ったか？

4時30分に出発。夜明け前の空にオリオン座や昴が綺麗に見えた。いい天気だ。昨日行け



なかった独標を目指す。ワクワクして出発した。

丸山を過ぎると這松が途絶え、ゴロゴロ岩を登る頃にはすっかり夜が明け、後方の焼岳の頭が朝日を受けて赤く染まっていた。上高地は眼下にたなびく雲の下。眼前に笠ヶ岳が蒼くそびえ立ち、雲海の向こうには乗鞍や遠く富士の頭も見えた。この解放感！あー やっぱアルプスはいいなあ〜！そこから30分も進むと岩稜帯に入り、行く先を見上げると切り立った高い台形の岩の上に数人の人が見える。あそこが独

標や！近くて遠い岩山の頂上へ。急斜面を1歩ずつ足場を確かめながら下って登って。岩山の上に乗ってみると正に独立した崖の上。360度の眺望、前方に西穂高、ジャンダルムと続く。隣の山へはどこから行くんだろう？岩場の端からこわごとと下を覗くと、来た道よりももっと険しい岩稜が続いていた。

登って来た道に戻り、西穂山荘を8時10分に後にした。次の焼岳小屋への道程は上高地を左下に見て、梓川と平行に割谷山を越えて行く。道がぬかるんで足をとられ、油断すると滑りそうなところを避けながら、木の根っこをまたぎまたぎながらひたすら歩く。見晴らしは悪く、目指す焼岳は一向に見えない。何処が槍見台だったのか、割谷山だったのかわからないまま悪路に辟易しながら5時間歩いた。救いは薄曇りの天候だけ。長かった。

焼岳小屋についたのは12時30分。少し休んで展望台まで登る。焼岳は半分ガスに覆われていたが、噴火跡の茶色の山肌が美しかった。至る所から温かい噴煙が上がっていた。ここまで来たからには登りたい気持ちは山々だったが、下山の時間と体力を考えると到底無理だった。

それからの下山の道のりはさらにきつかった。行けども行けども周りの山の高さは変わらず下りている気がしない。ロープウェイだと30分程の高さなのに、やっと温泉街が見えてからも下界は遥かに下だった。1歩出す足が重い、膝が痛い。誰も無口でただ黙々と足を運ぶ。とにかく自分の足で下りるしかない！と自分に言い聞かせ、膝の痛みに耐えながら1歩1歩下りていく。川の水音が聞こえてきた時は嬉しくて少し元気が出たけど、それから先もまだまだ長かった。中尾温泉登山口に着いたのが16時40分、朝から12時間歩き続けたことになる。

佳留萱山荘についたのはグループで1番最後だった。他のグループと合流しての夕食、アクシデントでコースを変更したグループも有ったが、無事に山行を終えみんな晴れ晴れとした顔で話に花が咲いた。この宿は、自然に囲まれた露天風呂が素晴らしく、貸し切り風呂からは槍ヶ岳が見えた。感動したのは混浴の大露天風呂、250人は入れるという広さは解放感いっばいで、宿のムームー風の浴衣を着けて渡り歩き、星を見ながらゆったりと疲れを癒した。その夜は女性4人でおしゃべりもそこそこにぐっすり眠りこんだ。が、朝起きると太腿が痛くて下りる階段がづらい。へっぴり腰でバスに乗る。

最終日は高山市内散策、昼食は飛騨牛の焼き肉を食べみんなご満悦。帰路のバスの中で各グループの山行報告があり、それぞれ予定変更による苦労はあったものの、全員無事に下山出来て良い山行だったようだ。皆さまお疲れ様でした。やっぱアルプスは最高～!!

次は槍ヶ岳に行くぞ!

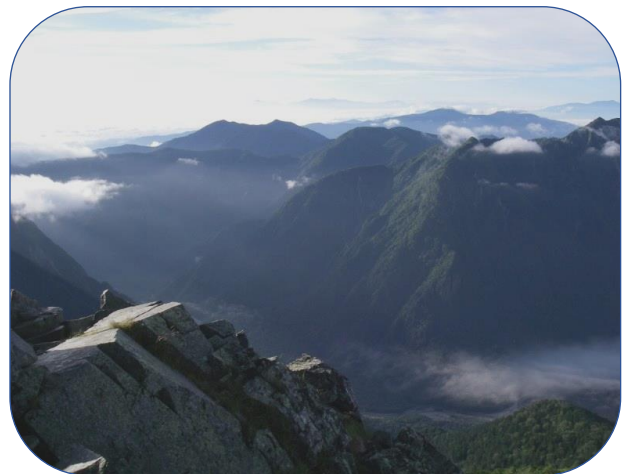
◆◆独標反省文

関山

良い天気だ。久しぶりの夏山集中登山の参加だ。緊張感がある。加古川駅北の集合でお願いしたのに宝殿の感があり200円のところ240円切符を買ってしまった。もうすでに失敗がはじまっていた。

バスは順調に走っているように思えたが、なかなか高山に到着しない。雨が降ってくる、新穂高ケーブル下駅に着いたのは16:30頃、最終の出発まで時間がない。走る、走る。

西穂高駅でSLのストレッチが始まり、18:30西穂高山荘につく。雨、汗、の中すぐに夕食が始まる、なんと忙しい事、生ビールはもちろんの事、会長の焼酎が強かった事(美味しい)。飲みすぎて部屋に行くのが遅れてしまい、私の寝場所は出入口通路のすぐ前、何と通行者の多い事、寝返りが打てない4回も寝方を変えたが、朝までほとんど寝付けなかった。3:00頃から出発の準備にかかった。



4:30独標に出発、丸山で写真を撮り独標が確認できる頃の天気の良いさ・最高

だ。上高地は雲海の下、焼岳に朝日があたり雲海がまるで太平洋の静かなうねりに見える。時間と共にそのうねりが様子を変え楽しませてくれる。まるで海だ。独標に続くガレ場、「三点支持でしっかり登れ」と、「ゲキ」が飛ぶ。

段々登山者が増えてくる、年齢を意識した同志が「おいくつですか?」「私は71才、私は76才」同じ目的を持つ方々が独標の上でにっこり、破顔一笑・・・なかなかいいものだ・・・

8:00頃焼岳小屋向け出発。何ら問題はなかったがリックの重さを感じる、リックが腰で踊っている、山道はやけに沼地が多い。

1回目の転倒はその沼地で小枝を踏んで顔から沼に突っ込み、口の中を切った。2回目は尾根道をトラバースしている時に路肩を踏み外し笹の上を2転回した、3回目は体を預けた立木が折れ転倒だ・・・。ETC…6回続く、何とか12:30に焼岳小屋に到着し400円の飲料水で元気を頂く?

私の戦闘服はドロドロでボロボロだ。しかし昼食はしっかり食べたつもり。焼岳の硫黄の臭いと共に真下から見上げた。感動的、活火山だ。道中に沢山の火山の警戒表示があった。北アルプスの下りは長く足場も悪い樹木が違う、緑の色が違う、キノコの種類が多い(名前は解らない)、光ゴケの密集地の案内等があるが、私には見る余裕はない。リュックが腰で踊っている、痛みが走る・・・私のせいで遅れてくる、必死で歩くがダメだ、見かねたSLから「荷物を分担しよう」・・・助かる。しばらくしてSから声がかかり私は空荷となる。最後の2時間が長かった事。焼岳下山口の標識は私にとってはまるで十字架だ。

この文面をお借りして①のクルーに、「迷惑を掛けました」、お詫びです。

今、その原因を考えると

- ① 前日の夜ほとんど一睡もできなかった。
- ② リックの紐の調整ができていなかった。
- ③ 高地トレーニング不足(酸欠?)
- ④ リックの重量オーバー(10~11kg)?

体を張った貴重な体験、今後の山行に生かしていきたい。反省、反省。

2 コース アルプ山行 西穂高ピストン

● 日 程：8月19日(土)～21日(月)

● 参加者：L 竹内 SL 和田 大谷 佐々木 須増 三木(悦)

● 行動記録：

(19日) 西穂高口 17:15 発～西穂山荘(18:25 着・泊)

(20日) 西穂山荘 6:00 発～丸山(6:20 着)6:25 発～西穂独標(7:20 着)7:35 発～ピラミッドピーク(N o. 8 ピーク)8:10 西穂高山頂(9:20 着)9:35 発～ピラミッドピーク(N o. 8 ピーク)10:40～西穂独標 11:20～丸山(12:10 着)12:15 発～西穂山荘(12:30 着)13:00 発～西穂高口(14:10 着)

◆◆2017年夏山集中2班 西穂高岳

佐々木

西穂高コースはロープウェイで登りロープウェイで下り、その上、テント泊が小屋泊に変更となり2017年の夏山の各コースの中では1番緩いコースのようだ。ザックも日帰り用で収まってしまった。

19日8時高砂駅を出発、道中渋滞などで到着時間は気になるが、ひたすら眠る。

悲劇の寸前の幸運というか、新穂高ロープウェイ乗り場に着いたのが、最終便の発車間際、何とか乗せてもらい、西穂登山口へ。小雨がぱらつく中を西穂山荘へと向かう。山小屋到着時間が18:25とは常識はずれの時間だがこの小屋はロープウェイ最終便で来る方もあり見え寛容である。

19日深夜：着干した湿った衣服も乾き、やっと熟睡と思ったが汗びしょりで目が覚める。

窓を開けると湿っぽい冷気が流れ込む。外は星空。

20日早朝：3時過ぎからの準備を終えて4時ごろ独標焼岳班が出発していった。広くなった部屋の中、大の字になって1時間ほど熟睡(本日の活力を得る。)

20日6時：小屋の外の棚に余分な荷物をデポして更に軽くなったザックで歩き出す。

最初のピーク丸山への到着を霧に映った丸山の影に虹が架かったブロッケンが迎えてくれる丸山を過ぎて、独標への取り付けから岩稜帯となる。独標頂上から目の前のスマートなピラミッドピ



ークへの岩尾根に細いルートが続いている。気を引き締めて前進。岩尾根の登り下りを繰り返して、ピラミッドピークに到着。ここはNo. 8のピーク。西穂までに13のピークがあるとの事だが、 $13 - 8 = 5$ 。5つピークを越えたことになる。

数が合わない。気になるが前進する。

ピークを通らずに巻き道を通るところもあり、下りの無いのをありがたく思う。途中に這松の実を食べ散らかしたものが落ちている。多分雷鳥だろうが姿は見えなかった。

連続する岩稜帯は緊張の連続であり、感想文担当などの雑念は完全に意識から消えた。

暑くないので、足元を見る眼鏡のレンズに汗が落ちることがないのが救いである。

スタンスを探し、ホールドをさぐる。以前だとヒョイヒョイヒョイと登れたであろうが今はヨイショ、ドッコイショと掛け声をかけてやっとこさで登る。(情けないが現実である。)

西穂への最終の登りをこなして頂上にたどりつく。ガスの切れ目から奥穂が姿を現す。細い岩尾根の先には、崩れた煉瓦の壁のような岩壁の赤岩岳、間ノ岳が迫る。見るだけで満足とする。

ここから先のルートは、ヨイショ・ドッコイショの身となっては叶わぬ夢とを感じる。

奥穂を眺めての休息の後、もと来た道を引き返すが、「行きは良いよ帰りは怖い」で西穂からの下りでは、今まで以上の緊張を強いられる。

ピークの数を知る余裕もなく、ピラミッドピーク、独標、丸山と戻ってきた。西穂山荘で大休止。ビールを我慢してロープウェイで下山。無事の下山をソフトクリームで祝った。

暑くなく、重くなく、遠くなく、雨もなく、緊張感十分な、おもしろい山でした。



3 コース 北アルプスの主峰に登る 槍ヶ岳

- 日程：8月18(金)～21日(月)
- 参加者：L森本 SL前川(克) 島谷 田羅間 舛賀
- 行動記録：
 - (18日) 姫路駅6:00 発一名古屋駅(7:22 着)9:39 発一高山駅(14:05 着)14:25 発一栃尾温泉・民宿たからすぎ(15:45 着)
 - (19日) 栃尾温泉7:00 発～新穂高温泉駅(7:50 着)8:00 発～西穂高口駅(8:30 着)9:20 発～西穂山荘(10:20 着)10:45 発～西穂独標(11:55 着)12:05 発～西穂山荘(13:10 着)13:30 発～焼岳小屋(17:30 着)
 - (20日) 焼岳小屋6:45 発～焼岳山頂(8:25 着)8:35 発～焼岳小屋(10:15 着)10:30 発～中尾キャンプ場(14:00 着)14:05 発～佳留萱山荘(15:00 着)

◆◆槍ヶ岳を断念して西穂独標と焼岳へ

田羅間

8/18 JR姫路駅発6:00の新幹線「のぞみ」に、私は新神戸から合流。5コースの奥穂高岳グループ7人も一緒。名古屋までは順調だったが、高山に向かう特急が途中、大雨のため運行打ち切り。バス移動も考えチケットを購入。すると9:39発の特急が突然出発という。

リーダー達がバスの解約に行っている間に列車が出発。ところが上麻生駅でポイント故障のため1時間半待ち。高山駅には後から来たリーダーたちの列車はさほど遅れず合流。その後タクシーで栃尾温泉の民宿宝杉へ。夜相談し3コース、5コース一緒に独標と焼岳登山にコース変更。

8/19 民宿からバスで新穂高ロープウェイ駅へ。そこで改めて登山届を出す。ロープウェイを乗り継ぎ、しらかば平駅から西穂高口駅へ。西穂山荘まで登り、サブザックで西穂独標をピストンする。最初のうちはなだらかな登り、頂上近くはすごい岩場、それでもなんとか登る。

頂上から西穂高岳を見ると下るのも登るのもすごく険しい道であった。西穂山荘に戻る。そこから焼岳小屋へ下る道がまたすごい。ズクズクのぬかるみ、岩ゴロゴロ。アップダウンを繰り返して歩いて行く。薄暗くなってくるし、ひどい道と疲れで心細くなるが、皆頑張る歩く。

17:30頃小屋につく。寝床の割り当てで文句タラタラのグループがあり、いやな思いをする。

8/20 焼岳小屋を出発して焼岳山頂へ。始めは普通に山登りだったが、標高が上がるにつれ石コロだらけ、直下は岩の間を登って行く。頂上で噴火口を満喫。小屋に戻ってすぐ5コースと一緒に下ることにする。中尾キャンプ場まで3時間半。14時についたが、車で迎えに来て



もらうには1時間以上待たねばならず佳留萱山荘まで炎天下の車道を1時間以上歩く。

山道よりも疲れた。宿につきとりあえず温泉に入る。やっとと心地着く。

突然の天候異変でコース変更を余儀なくされたが西穂独標も焼岳も私にとっては初めての山。それはそれでよかった。計画変更や山小屋の予約またキャンセルなどリーダーさんにはとてもお世話になりました。ありがとうございました。

4 コース お花と絶景を楽しく歩く 双六岳

- 日 程：8月18日(金)～21日(月)
- 参加者：L 澤田(律) SL 藤原(千) 有本 坂田 矢根
- 行動記録：

(18日) JR大阪駅7:58 - JR高山駅13:45着(14:00発) - 新穂高温泉(15:10着)15:25発
～わさび平小屋(16:50着・泊)

(19日) わさび平小屋4:40発～小池新道口(5:10着)5:15発～秩父沢出合(6:40着)6:55発
～シシウドが原(9:00着)9:10発～鏡平山荘(10:35着)11:20発～弓折岳分岐(13:05着)
13:20発～双六岳(15:40着・泊)

(20日) 双六小屋 4:00 発～双六岳(5:30 着)5:45 発～双六小屋(6:15 着)7:00 発～弓折岳分岐(9:15 着)9:25 発～鏡平山荘(10:25 着)11:05 発～シシウドが原(11:55 着)12:10 発～秩父沢出合(13:25 着)13:35 発～小池新道口(14:25 着)14:35 発～わさび平小屋(15:00 着)15:20 発～新穂高温泉 16:10—佳留萱山荘(16:40 着・泊)

◆◆8月19日 鏡平から双六小屋へ

有本

長い距離を歩く、不安を持ちながらスタートしました。わさび小屋を4時40分に出発し、始めはなだらかな平地を1時間位歩き、小池新道登山口からはゴロゴロ岩道、整備されていたので、少しは歩きやすかったが、とにかく登りが、ずっと続き、きつい。何度も休みながら先



頭を交代しながら頑張って歩きました。やっと鏡平山荘につきました。ゆっくりしたペースで6時間かかりましたが頑張りました。昼食をとり、元気を出し又、歩き始めます。弓折岳分岐までは、きつい坂道で長かった。その後は稜線で穂高連峰を見ながら歩き、途中お花見平では可憐な花を見て楽しみ、黒百合平では雲の晴れ間から槍ヶ岳が、顔を出し「ワアー」と言う歓声があがり、皆一斉にカメラを構えます。感動です。又元気を取り戻

し後ひと踏ん張り、そこからは3回位、アップ、ダウンを繰り返し、やっと15時40分、双六小屋に着きました。11時間というノロノロ歩行で時間は、かかりましたが達成感を味わい、苦しかったけれども、いい経験になり、自信ができました。温かい心遣いの澤田さん、的確な判断の藤原さん、坂田さん、矢根さん、いいメンバーに恵まれ思い出に残る、楽しい山行となりました。ありがとうございました。

◆◆8月20日 360度のパノラマにうっとり

矢根

2日目の20日、早朝3時30分に起きてヘッドライトを付け、双六岳山頂を目指した。始めは急登で足元に注意しながらゆっくりと登っていった。振り返ると樅沢岳への登山道にはライトを付けた人たちが点々と連なり、富士山登山の様だなあと見ていたら少しずつ空が明るくなり始めた頃、山頂へ到着。

山頂では、360度のパノラマにうっとりし、槍ヶ岳の姿に感動しゆっくりしたい気持ちを残しながらも下山。

双六小屋に戻り朝食のお弁当を食べた後、往路に登って来た道を下り、鏡平山荘で朝のお弁当の残りでおにぎりをおぼり、エネルギー補給をし、次は鏡池、残念な事にすばらしい山々はガスがかかっているも見えませんでした。

シシウドヶ原、イタドリヶ原、秩父沢、小池新道入口と過ぎ、わさび平小屋では冷たい水で冷えた、りんごを食べ最後の左俣林道を



疲れた足で新穂高温泉ロープウェイ乗り場に全員無事に到着しました。

みんなで途中何度も、ようこんな道を登れたなあと話し、そして、登って行く人の後ろ姿の疲労感に昨日の自分を思いました。

初めての夏山で不安ばかりでしたが、リーダーとメンバーのおかげをもちまして楽しい山行が出来、感謝、感謝です。

雷鳥には会えませんでした。たくさんの高山植物、黒百合、チングルマ、キヌガサソウ、ハクサンイチゲ、アオノツガザクラ、タテヤマリンドウ、ハクサンフウロ、トウヤクリンドウ、シモツケソウなどを目にして良かったです。

来年の夏山を楽しみにしたいと思います。

5 コース 日本第三の高峰に挑戦

- 日 程：8月18日(金)～21日(月)
- 参加者：L野村 SL上田 香川 垣内 河合 田中(重) 待場
- 行動記録：
 - (18日) 高山駅 14:25 発ー栃尾温泉・民宿たからすぎ(15:50 着・泊)
 - (19日) 栃尾診療バス停(7:18 着)7:45 発～新穂高温泉駅 8:30 発～西穂高口駅(8:30 着)～西穂山荘登山口(9:10 着)～西穂山荘(10:20 着)10:45 発～丸山(11:05 着)～西穂独標(12:03 着)12:15 発～丸山(12:55 着)13:00 発～西穂山荘(13:15 着)13:30 発～焼岳小屋(17:25 着)
 - (20日) 焼岳小屋 6:45 発～焼岳北峰頂上(8:10 着)8:20 発～焼岳小屋(9:45 着)10:30 発～焼岳登山口(13:30 着)～中尾キャンプ場(14:00 着)14:10 発～佳留萱山荘(15:10 着)

◆◆波乱万丈の夏山集中山行

香川

危険が多い岩稜帯を登る奥穂高、参加を申し込んで、私なりにトレーニングをし、地図をたどってみたいしました。



爽やかな上高地から直登。3時間ほどで岳沢小屋に到着し翌朝、ヘルメットを被り重太郎新道～紀美子平にリュックをデポし前穂高岳に登頂 紀美子平～吊り尾根～垂直な梯子や鎖場を慎重に登り3190メートルの奥穂高に到達。それから涸沢に降りてくる予定のコースでした。

当日、槍グループの5人と私たち奥穂高7人と一緒に新幹線で名古屋まで行き、ワイドビューひだ1号に乗り換えでしたが、名古屋駅で高山方面の大雨のため電車が2時間遅れの発車になり、また途中でも信号機の不具合で、85分間下麻生駅に停車しました。高山駅についてのが、13時45分。この時刻では、上高地から岳沢小屋に安全な時間に着くことは無理と判

断し、今日の宿は新穂高温泉の手前の栃尾温泉の民宿になりました。奥穂高に登ることは、断念して、結局12人全員で翌日は新穂高ロープウェイ～西穂高山荘～独標～西穂高山荘～焼岳小屋泊まり～焼岳山頂～小屋に降りて中尾キャンプ場まで下り、佳留萱山荘。

登る山は変わったけれど、栃尾の民宿では、のんびり温泉に浸かれたし、独標からは西穂高岳に登る険しさを確認することができました。

100名山である焼岳は、お天気も良く、朝早く登れることもあり、しらびその谷を下に、雲海も見ながら気持ち良く歩くことができました。北峰頂上では雲の切れ間に、遠く穂高の山々、槍も見ることが出来て、皆笑顔で記念撮影。

途中 遅れる方もありましたが、中尾キャンプ場に無事12人全員降りることができ良かったです。まだ14時過ぎのため佳留萱山荘までは、アスファルトの坂道を歩いていきました。15時到着！！（；▽；）

リーダーの方々、同行の皆様お疲れさまでした。そしてありがとうございました。



■ゆっくりリズム姫路市自然観察の森(196m)

- 日 程：8月27日(日)
- 参加者：L 平井 SL 澤田(律) 内海 香川 垣内 狩集 木村 澤田(卓) 田中(美) 苦瓜 橋本(万) 開 増田 三木(勉)

- 行動記録：ネイチャーセンター(8:55着)9:10発～頂上(10:12着)10:25発～ヤンマ池観察小屋(10:50着)10:55発～飾西高校出口(11:05着)11:10発～姫新線操車場 11:25～北出入り口 11:35～こなら林(11:55着・昼食)12:20発～中央広場 12:25～姫路科学館(12:50着)14:35発～自然観察の森駐車場(15:15着)

◆◆姫路市自然観察の森&プラネタリウム

橋本(万)

夏の森にはどんな花が咲いているのかが知りたくて興味を持って参加させて頂きました。そして、高度180mという山頂をめざしての山行と聞き、楽々気分で歩き始めたのですが帰り道には汗だくで、途中の星の子館ではみんなでかき氷を頬べるほどでした。

さて、ネイチャーガイドの井口さんの案内で森歩き開始です。この時期の花は、姫路市のマーク「サギ草」で湿原地帯は盛りでした。道端に咲く「クサ木」の花はごま油の臭いというらしいが蝶の寄る花木と聞き、なるほどクサ木の咲く場所には蝶々がいっぱい飛んでいました。

井口ガイドは女性でしたが、昆虫にも精通しておられウマオイを手づかみし鳴き方の説明や、女郎グモの習性、ハイイロチョッキリの枝切り、取り付けられている巣箱のトタン屋根の理由、など一時間たっぷりおもしろい話を聞きながら歩きました。また、最初にスズメバチの対処法として、チラチラ動くものを身に付けているのは危険ということでザックに付けていた名札まで外すように注意されました。最後に雄の蚊は有益虫でハチより多く夜間でも受粉に寄与しているので、やたらに殺虫剤をまかないでほしいと言われていました。



山頂登頂？後は飾西高校のトイレを借り、その周りの地道を延々と歩き、また森に戻り、最後科学館のプラネタリウムで今夜の姫路の星空を見ながらおやすみタイム・・・アナウンスのお姉さんの心地よい「皆さまおはようございます」の声で目覚めた本日のプログラム終了でした。



■京都の奥座敷 鞍馬山・貴船山

- 日 程：8月27日(日)
- 参加者：La 尾越 SLa 上田 大谷 乙坂 木下 黒本
Lb 三木(悦) SLb 山本(正一) 田中(重) 土井 安田 矢根

- 行動記録：鞍馬駅 10:00 発～仁王門(10:05 着)～由岐神社(10:10 着) 10:15 発～鞍馬寺(10:35 着) 10:45 発～奥の院(11:10 着) 11:15 発～貴船神社(11:30 着) 11:40 発～貴船神社奥宮(12:00 着) 12:30 発～滝谷峠(13:30 着) 13:35 発～貴船山(14:10 着) 14:15 発～大岩分岐(14:50 着) 15:00 発～二の瀬駅(15:45 着)

◆◆鞍馬山・貴船山に登る

土井

8月最後の日曜日、まだまだ暑い中、JR京阪、叡山電車と乗り継いで鞍馬につきました。鞍馬駅では、大きな天狗のモニュメントが迎えてくれました。そういえば、冬に大雪で天狗の鼻が折れたというニュースをやっていたなと思い出しました。今は、立派な鼻が復活していました。駅から少し歩くと鞍馬寺の入口、仁王門があり、愛山料を払って中に入りました。

鞍馬寺の本殿へ行く途中に由岐神社があります。大きな杉のご神木がありパワースポットなのだそうです。鞍馬寺の本殿前の地面は石が六芒星の形になっているところがあり、その中心が最も強いパワースポットらしいです。1人ずつ順番に中心に立ってパワーをもらいました。

その後しばらくして、太陽の方を向いて立った方がいいと言われてもう一度やり直しました。何のパワーかはよくわからないけれど、良い気が体の中を廻ってくれるといいのだけれど。

本殿を後にしてから、牛若丸が跳躍の練習をしたという木の根道、樹齢千年ちかい杉の大杉権現社、不動明王が奉安されている僧正ガ谷不動堂、金星から降臨した魔王尊が祀られている奥の院など見るところがたくさんありました。

鞍馬寺の西門を出ると観光客と車で混雑していました。お昼時だったので川床でランチをする



人たちでしょうか。なにげに店先のメニューを見てみるとまあまあのお値段でした。いつか川床でゆっくりセレブなランチしてみたいものです。

貴船神社につくとそこもまたたくさんの人が並んでいたのが本宮のお詣りはできませんでした。貴船神社奥宮でお昼休憩をとり、貴船山へと向かいました。

それまでは、観光地ということもあって道も整備されていて階段がちょっとしんどいかなという感じでしたが、貴船山までは足元も岩が多く、ひたすら上りが続いていて結構きつかったです。ただ、ずっと林の中で陰にな

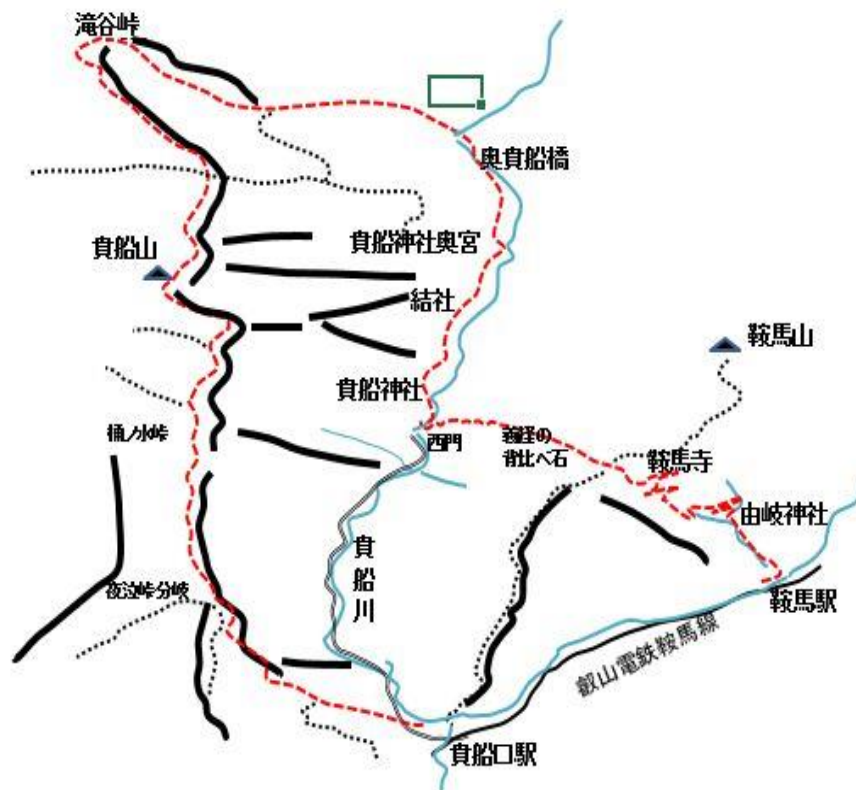
っていたので思っていたほど暑くなくてよかったです。

下りは貴船口駅に行く予定でしたが、ついたのは二ノ瀬駅でした。案内板等もなく駅も横道を逸れた細い階段を上ったわかりにくいところにあり、行き過ぎてしまいました。きっと他の人も迷うんじゃないかなと思います。

今回の山行は京都の観光地鞍馬山、貴船山ということもあって、お寺や神社などいろいろ見る所がたくさんありとても楽しい1日となりました。

リーダーさんをはじめ皆様方ありがとうございました。

【概念図】



とまみやま ■ 苦編山・鬢櫛山 (165m・186m) 女性委員会 姫路市街を一望しながら歩く

- 日 程：9月2日(土)
- 参加者：La 三木(悦) SLa 尾内 貝塚(陽) 金島 狩集 小山 田中(美) 田中(由) 山本(清)
Lb 岡本 SLb 待場 土屋 苦瓜 平石 開 村上 矢根

- 行動記録：JR英賀保駅 9:25 発～本徳寺 (9:33 着・ストレッチ) 9:44 発～86mピーク (10:02 着)～休憩 (10:21 着) 10:27 発～81mピーク (10:30 着)～苦編山 (10:55 着) 11:04 発～157mピーク (11:40 着・昼食) 12:13 発～靱取山 (12:43 着) 12:50 発～鬢櫛山 (13:07 着) 13:24 発～登山口 (13:50 着・ストレッチ) 13:57 発～JR播磨高岡駅 (14:00 着)

◆◆苦編山・靱取山・鬢櫛 山への縦走

貝塚(陽)

9月に入ってから秋風が吹くようになり、朝夕の気温も下がって過ごし易くなって来ましたが、日中は相変わらず日照りが強く、今日の山行は低山であるので、高御位山と同じ様に蒸し暑い山行になるのではないかと考えていました。

JR英賀保駅に集合し、9時25分に出発。少し歩くと本徳寺につきストレッチをした後、地形図を見ながら行く先を再確認しました。

境内の墓地の石段を上がって行く
と直ぐそこに大きな貯水タンクが在り、
タンクに沿って登山道を歩いて行き、
緩い登りのピークを2つ越えると見晴
らしの良い岩場が在り、この岩場を登
って行くと苦編山(とまみやま)につく
事が出来ました。山頂では素晴らしい
展望が開け、遠くの山々が眺められて
心が癒されました。



山頂を後にして、ロープが取り付け
られている急坂を下って尾根道を進んで行き、最高峰である靱取山(もみとりやま)を通って鬢櫛山(びんぐしやま)につきました。ここより少し下ると展望の良い岩場が現れ、姫路市街や姫路城を見る事が出来ました。さらに尾根道を通り、鉄バシゴを下って行くと、高岡方面よりの登山口に出てJR播磨高岡駅に向かって歩き、14時に駅へつきました。

この山は読めない山名が多く、尾根道には分岐点や登り下りが沢山ありますが、道標も少なく低山ながら踏み跡が不確かな所が有り、時々立ち止まって地形図を確認しながらの縦走となりましたが、展望も良く、ほとんど樹林帯で思ったより風通しも良く、楽しい山行でした。



■黒尾山(1024.7m) 宍粟50名山 県内最南端の千メートル超に登る

- 日 程：9月3日(日)
- 参加者：L和田 SL森本 笹木 西口 舛賀 松本 森下

- 行動記録：八幡神社(9:00着)9:05発～駐車場(10:00着・ストレッチ)10:10発～登山口(10:15着)～不動滝分岐(10:40着)～虚空蔵尊(11:50着)～役行者像分岐(11:55着)～黒尾山(12:10着・昼食)12:40発～役行者像(13:00着)13:05発～不動滝分岐(13:15着)～口滝(14:15着)～登山口(14:20着)～駐車場(14:30着)～八幡神社(15:00着・ストレッチ)15:10発

◆◆黒尾山登山

和田

この山は私が高御位山遊会に入会する前、およそ10年前頃一度登った山である。この頃は“ふるさと兵庫50山”を買って山に登り始めた頃である。地形図もコンパスも知らないでこのガイドブックだけを頼りに登っていたものである。今はどんなルートで登ったのか全く覚えていない。頂上に、もう使われていない廃屋とその上にサビて残っている電波塔があったという事しか覚えていない。一昨年春先、高御位山遊会山行でこの山に行ったが、雪があるので

山に登るのをやめて沢筋の不動の滝を訪ねた。

今回のアクセスはジャンボタクシーである。前日、オフロードは走らないと連絡があり、登山口のずっと手前で下車した。今日は台風15号が太平洋沖を通過して冷気を運んできて秋の空気のような涼しい風が吹いている。舛賀さんリードのストレッチ後ゆっくり歩きはじめた。

人数も7人と小じんまりとしていて良い。ずいぶん歩いて、ようやく見覚えのある登山口の案内図のあるところまで来た。西口さんがスマホでYAMAPを開いて現在地を確認している。

今回私は、国土地理院地図の他にYAMAPの地図も印刷してきた。現在地の確認ができ便利である。当初、中央陵の最下部から尾根に取り付く予定にしていたが、YAMAPの地図には左の沢筋を少し行くと“黒尾名水”と銘打った場所があり、そこから中央陵への登り口も記してある。このルートに行くことにした。あった。黒尾名水と書かれたボロい案内板があった。

そこに少し窪んだ所があったが小石と苔で埋まって水溜まりにはなっていない。が、きれいな水がチョロチョロと流れている。そこのすぐ近くに中央陵への登山口の標識も見つかった。みるに、そんなに人が歩いたような踏み跡はない。およその見当で登り始めた。足がずるずるとずり落ちそうな急登である。

しかもこれでルートを外れていても判らないだろうなと心配するようなルートである。右へ行こうが左へ行こうが似たものであり左の方を登っている者もいる。木をつかみ、石をつかん

でやっと尾根筋にでた。尾根に出たらさすがに踏み跡がついている。

若干は歩き易くなったがそれでもけっこう急登である。まもなく不動滝への分岐表示が現れた。

このルートも踏み跡が判り難い。しばらくしたら虚空蔵菩薩の祠に出会った。また少し上ると役行者像への分岐が出てきた。みんなほどほどに疲れてきていたので、これは帰りに寄ろうという事にした。しばらくして12時頃頂上についた。あった。あの電波塔みたいなのが。



頂上に木は無いがススキが茂っている。黒尾山

と書いた支柱と三角点があり、方位説明盤がある。集合写真を撮って、弁当を食った。そこに30分いて下山にかかった。下山するとき改めて急登だったんやなど再認識した。役行者像へも寄った。そして不動滝へ向かって下って行った。このルートも踏み跡が殆どないルートである。草が生えているがそれを踏みつけた形跡がない。だんだん下るにつれて軸にとげが出ているねむの木の葉のような灌木が多く生えているところに出た。衣服に絡むととげのせいでなかなか外れない。苦労して下っていると口滝という表示の滝に行き当たった。

これは一昨年見た不動滝ではない。おかしい、不動滝はどこへ行ったのか？さらに下りて行ったら、ふいに朝の案内図看板のあるスタート地点に出た。あとで思えばなんでYAMAPで確認しなかったのか！ どうやら不動滝表示を見落としたようである。それからタクシーが待っている場所迄1時間弱てくてく歩いて戻った。

皆さん元気である。さあ風呂に行きましょう！